【　大動脈外科　】教育進行過程

※一人で役割を付けることができるレベルを「達成の評価」とする

器械出し
6ステップ

	STEP1-①	STEP1-②	STEP2-①	STEP2-②	STEP3	STEP4-①	STEP4-②	STEP5	STEP6-①	STEP6-②
目標	・清潔操作の理解と器械台の展開ができる	ドレーピングからオペ開始までの対応ができる	正中症例の開胸、止血、閉胸ができる	ラテ、胸腹部症例の開胸、止血、閉胸ができる	正中症例のカニュレーションができる	TAR、HAR、AD（A）症例が1人でできる	DSR、DSR/DHCA症例が1人でできる	ARR、AVR、胸腹部瘤の症例が1人でできる	re-doの症例が1人でできる	CABG、弁を含む複合症例が1人でできる
術式	TAR、HAR DSR、DSR/DHCA	TAR、HAR DSR、DSR/DHCA	TAR、HAR	DSR、DSR/DHCA 胸腹症例	TAR、HAR、AD（A）	TAR、HAR、AD（A）	DSR、DSR/DHCA	ARR、AVR、1R～5R	正中、ラテの re-do症例	CABG、AVR、ARR、 MVR（±TAR、HAR）
取得予定経験数	見学：2回目まで見学	見学：2回目まで見学	見学：各症例3回目まで見学	見学：各症例3回目まで見学	見学：各症例5回目まで見学	見学：TAR,HAR 8回目まで見学 AD（A）2回見学	見学：各症例5回目まで見学	見学：各症例2回目まで見学	見学：各症例2回目まで見学	見学：0～1回
	実施：3回目から実施	実施：3回目から実施	実施：4回目以降実施	実施：4回目以降実施	実施：6回目以降実施	実施：TAR,HAR 9回目から実施 12回目で卒検	実施：6回目以降実施	実施：3回目以降実施	実施：3回目から実施	実施：初回～2回目より実施
	5回目で卒検	5回目で卒検	実施5回目で卒検	実施5回目で卒検	実施2回目で卒検	AD（A） 3回目より実施 5回目で卒検	実施10回目で卒検	実施5～7回目で卒検	実施5回目で卒検	実施3回目で卒検
	初級					**中級**			**上級**	
	約 8ヶ月					**6ヶ月**				

備考

＊AAAR症例は症例数が少ないため随時実施。

＊STEP3をクリアしていなくてもSTEP4-①に進むことは可能だが、STEP5に進むためにはSTEP3のクリアが必須。

＊STEP2-②の胸腹部症例がクリアしていなくてもラテの症例がクリアしていれば次のステップに進める。その場合STEP5で評価する。

＊STEP2からSTEP4は症例によって①、②が変わるため、STEP2に上がる時点で①、②を本人と相談して決める。

＊STEP2-①からスタートした場合、STEP4-①までクリアしたら、STEP2-②へ戻りSTEP4-②へ進む。STEP2-②かたスタートの場合はその逆となる。

＊STEP5に進む時にはSTEP4-①、②をクリアしていることを条件とするが、症例が少ない場合、卒業していなくてもSTEP5の症例を経験することはありとする。